

研究紹介

学校評価

活力ある学校づくりをめざし、
学校評価を生かした学校改善の推進と校長の役割

宇部市小学校長会における取組

宇部市立琴芝小学校長

田 中 勇



一 はじめに

宇部市には二十四の小学校がある。複式学級を有する小規模校から児童数が八百人近い大規模校まであり、各校が様々な強み、弱みを抱えて、それぞれがそれぞれの地域にしっかりと根付きながら、特色ある学校経営を精力的に展開してきているところである。

一方で、本市小学校には、共通の課題があるのも事実である。以下に示す課題は、本市小学校長会全体の課題であり、これまでも諸先輩方が改善に向けて、粘り強く取り組まれ、その成果が、今、少しずつ実を結んできたところである。しかし、まだ課題解決の途上であり、小学校長会として引き続き取り組んでいく必要があると考えている。

そこで、本市小学校長会では、平成二十五年度から、その課題解決に向け、学校評価の効果的な活用を研究の中核に据えて、研究部を中心に研究を進めているところである。

課題について

- ① 変革に対応できる学校風土が醸成されているか。
- ② 現代的ニーズや本質的課題に対応できる校内研修体制であるか。
- ③ 児童の十分な学力保障ができているか。

二 研究の概要

(一)本市小学校が取り組むべき学校改善の方向性

研究を進めるにあたり、研究部では本市が取り組むべき学校改善の具体的な方向性を明らかにする作業から取組を始めた。

その中で、これらの学校改善を実現するためには、学校の組織力の向上が欠かせないとの結論に至り、学校評価をいかに生かせば学校の組織力が向上するのかが、校長としての役割はどうあるべきなのか研究部で検討を重ねた。

学校改善の方向性について

- ① 柔軟で開かれた学校風土の醸成
- ② 組織として強固な校内研修体制の確立
- ③ 学び合いによる活用育成に向けた授業改善

学校の組織力の向上



(二)学校評価を生かすことによる学校の組織力向上への校長の役割
研究部では、校長として有効と思われる役割を次の四点として研究を進めていくことにした。

- ① データマイニングによる「共有ビジョン」の提示
 - ・客観的なデータ、外部データ、第三者評価等の積極的活用
 - ・組織にとつての「ひとつの目的地」や「望ましい未来の映像」の提示
- ② 目標管理による組織運営への転換
 - ・目標の連鎖と校内分掌のマッチング
 - ・各分掌からの自己申告と、ミドルリーダーへの積極的な権限委譲
 - ・教職員評価の効果的活用
 - ・あらゆる教育活動における目標指標の設定とPDCAサイクルの実行
- ③ データマイニングによるアカウンタビリティマネジメントの強化
 - ・保護者・地域、組織内教員等への説明責任の遂行による信頼獲得
- ④ 各学校の発見を他校へ意欲的に公開、情報の共有
 - ・校長同士での危機感の共有

本原稿の寄稿時期は六月初旬のことであり、各学校での本格的実践はこれからとのこと、具体的な実践内容は、次へ譲らざるを得ないことをお詫びする。